

(2) 東北



東北地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

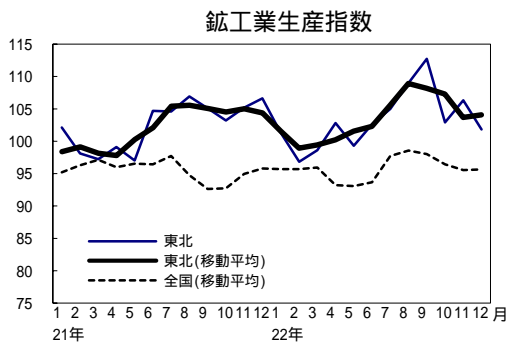
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

	前回(令和4年11月)	今回(令和5年3月)
景況判断	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる。
10 - 12 月期の鉱工業生産は、生産用機械は半導体製造装置等が減少したこと、化学・石油製品はガソリン等が減少したこと等により、前期比4.8%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	15.3	2.1	1.3	6.1	15.3	1.2
食料品	11.0	2.1	7.0	2.4	5.1	27.7
化学・石油製品	9.1	25.5	10.7	3.6	1.7	1.0
輸送機械	7.9	5.8	12.6	9.2	10.6	10.3
生産用機械	6.7	39.1	25.8	37.3	16.5	8.7
鉱工業	100.0	7.2	4.8	8.7	3.3	4.2

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の大線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10 - 12 月期、12月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

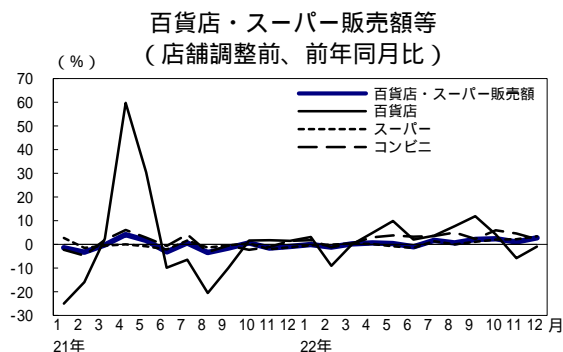
10 - 12 月期は前期比 0.7% 増となった。月別にみると、10 月は前月比 0.8% 増、11 月は同 0.1% 減、12 月は同 0.5% 減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12 月期は前年同期比 2.1% 増となった。月別にみると、10 月は前年同月比 2.3% 増、11 月は同 1.0% 増、12 月は同 2.7% 増となった。

百貨店は、10 - 12 月期は前年同期比 1.0% 減となった。

スーパーは、10 - 12 月期は同 2.5% 増となった。

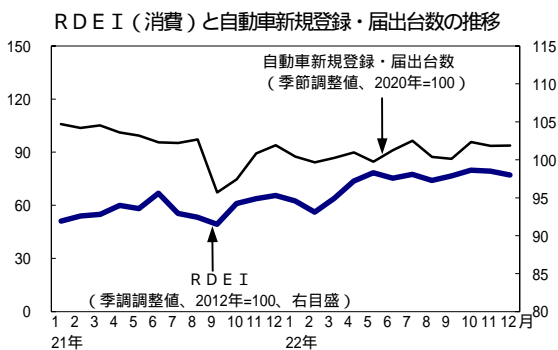


	2022年10-12月	2022年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.7	0.8	0.1	0.5
百貨店・スーパー(*2)	2.1	2.3	1.0	2.7
百貨店(*2)	1.0	4.2	5.8	1.0
スーパー(*2)	2.5	2.0	2.1	3.3
コンビニ(*2)	4.1	5.9	4.6	2.1
乗用車(*3)	10.0	28.2	5.1	0.9
(季節調整値)(*3)	4.9	10.9	2.2	0.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

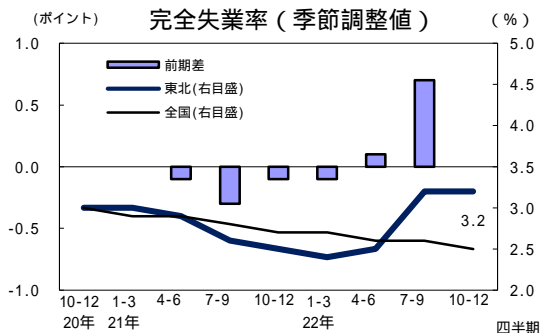
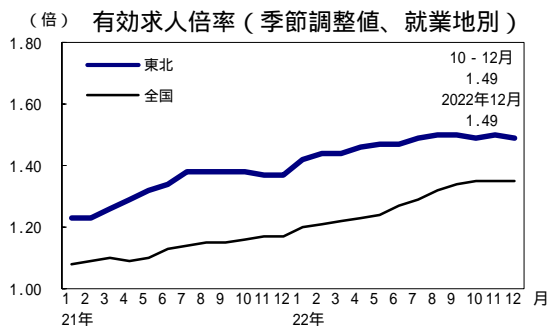
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前期と同水準となっている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年1月調査）景気判断理由の概要

2. 東北

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・コロナ禍真ただ中の最悪の状況との比較ならば良いが、3か月前との比較では大きな変化はない（旅行代理店）。
		▲	・光熱費や物価の上昇、寒波の影響に加え、久しぶりの行動制限のない年末年始で支出の増加があり、節約志向が高まっている。まとめ買いもお買い得品の買い回りが顕著になっており、総菜、即食性の高い品が人気で、調味料や光熱費、原材料の節約になっている（スーパー）。
		○	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いてきた。また、全国旅行支援等もあり、新幹線を含む旅客の移動がかなり増えてきている。それに伴い、来客数も徐々に増えつつある（その他小売 [ショッピングセンター]）。
	企業 動向 関連	□	・3か月前と比べ仕事量は増えてきたが、実際の受注量や価格などは横ばいの状態が続いている。人手不足や電気料金、鋼材等の値上がりで厳しい状況である（一般機械器具製造業）。
		▲	・販売量の前年割れが続いている。原材料価格の高騰も続いているため、景気はやや悪い状態になっている（食品品製造業）。
○		・受注量は相応にある。冬期間は雪と寒さから工事の進捗が遅れるため、休日作業等で工期に間に合うよう対応している（建設業）。	
雇用 関連	□	・企業を回っても景気の良い話を聞かない（新聞社 [求人広告]）。	
	▲	・建築資材高騰の影響を受け、建設業において小規模事業所からの求人数が少なくなっている。また、原材料、光熱費高騰の影響を受け、宿泊・飲食サービス業において飲食店からの求人数が少なくなっている（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			▲：当店は小規模店であり初売りも行っていない。また、主な客が高齢者のため、寒さの影響が出ていることから、来客数が減少している（住関連専門店）。 ×：材料費等が上がり、非常に厳しい状況である。物価高に加え、給料も上がらないため、客の財布のひもも非常に固い（高級レストラン）。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連	□	・燃料油価格激変緩和補助金の適用により、販売価格の急激な上昇はないものの、依然として高い水準で推移しており、今後も現状価格のまま推移するとみている。全体的な節約志向のもとで、販売数量の回復は見込めない（その他専門店 [ガソリンスタンド]）。
		▲	・4月には電気代の更なる大幅値上げが決まっている。固定費の上昇で節約ムードが高まっており、景気は悪化傾向にある（商店街）。
	企業 動向 関連	□	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に分類変更されて規制が完全になくなれば、小売、サービス業の業績は更に改善することが予想される。建設業は現状維持としても、製造業で円安による原料高、部品調達不足等による売上減少等の影響がまだ続くと思われるため、全体としては今と変わらない（公認会計士）。
		○	・一部客先から良い情報が入り始めている。見込みの情報だけではなく確定注文もあり、少し上向きとなる見込みである（輸送用機械器具製造業）。
	雇用 関連	▲	・求人数の動きにやや下振れの傾向がある。景気後退の懸念から長期の採用計画に弱気になっている企業が多い。全体的には景気回復に弱さがみられる（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント			○：新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行することで、人々の動きが新型コロナウイルス感染症発生前に近づくともみている（その他専門店 [靴]）。 □：新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が予想されるが、物価高による客の旅行意識の低下も予想される（観光型ホテル）。

(D I) 現状・先行き判断D I（東北）の推移（季節調整値）

